

令和6年度

## 学校関係者評価 報告書

評価期間

自：令和5年4月1日

至：令和6年3月31日

令和6年 6月2日

学校法人九州呉学園 専門学校日本デザイナー学院

本報告書は平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局の作成『専修学校における学校評価ガイドライン』及び、特定非営利活動法人私立専門学校評価研究機構の作成『第三者評価システムの概要 Ver 4.0』に準拠し実施した。

**【学校関係者評価委員会】**

**委員(業界関係者代表)**

井上 憲一郎(井上総合印刷株式会社 代表取締役)

**委員(業界関係者代表)**

佐野 直樹(株式会社ダブルベース 取締役)

**委員(業界関係者・卒業生代表)**

日高 信生(株式会社ディーゼロ 執行役員)

**委員(業界関係者・卒業生代表)**

宮崎 智文(トゥモローデザイン)

**委員(高等学校代表)**

田中 智  
(学校法人恭敬学園 学園長)

**委員(地域代表)**

井浦 賢治(東住吉公民館 主事)

**事務局**

大庭 香代子 (校長)  
野村 佳弘 (事務局長)  
大賀 琢実 (教務課長)

## 目 次

1. 学校の教育目的と使命	P 3
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	P 3
3. 点検項目の評価結果	P 4～12
(1) 教育理念	P 4
(2) 学校運営	P 5
(3) 教育活動	P 6～7
(4) 教育成果	P 7～8
(5) 学生支援	P 8～9
(6) 施設整備	P 9
(7) 学生募集	P 10
(8) 財務	P 10
(9) 法令順守	P 11
(10) 社会貢献	P 11～12
(11) 国際交流	P 12
4. 学校関係者評価委員の評価結果について	P 13

## 1. 学校の教育目的と使命

目的：産業経済と生活文化に携わる有能なクリエイターを育成することを目的とする。

使命：クリエイターの職能上必要適切な教養と技術を習得させ、あわせて人間形成に努め社会人としての自覚と責任を持たせるよう指導することを使命とする。

### 【職能的指導方針】

1. 基礎知識、技術の習得
2. 専門基礎知識、技術の習得
3. 専門知識、技術の習得

プロとしての基本知識と技術の習得、創造性豊かな人材育成を教育指導方針とする。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・教育内容の整備：業界のニーズに合わせた実践的な教育と企業や行政との産学連携を徹底し、各コンテスト等での受賞を目標とする。
- ・学習環境の整備：古くなった機材の入れ替えを行い、最先端の学習環境への整備を行う。
- ・情報公開の整備：学園の基本情報等を公開し、外部の方への透明性と理解度を高める。

## 3. 点検項目の評価結果

自己点検・評価結果(4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切)を基に学校関係者評価委員会で点検・評価を行った。

## (1) 教育理念に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
1-1)	教育理念・教育目標は示されているか	4…適切
1-2)	学校の特色は示されているか	4…適切
1-3)	学校の将来構想は示されているか	4…適切
1-4)	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	3…ほぼ適切
1-5)	各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3…ほぼ適切

### □自己評価総評・取り組み

学校全体としての教育理念や教育目標などは周知出来ているが各学科の詳細情報については周知に偏りがある。より細かい情報の周知が必要と考えている。各科分科会での周知内容を統一すること、可能な限り「見える化」する作業が必要となる。学校の将来性や教職員のマインドに対し高評価のコメントもあり、引き続き学校の発展に最善を尽くす。

### □学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・非常勤の教員が多いとどうしても理解度が低くなるのではないか？
- ・情報公開ページに魅力がない。魅力あるホームページにリニューアルしたほうが良い。教育理念等については高校生にもわかりやすいページを別途準備している。講師を中心にわかりやすいページも含め案内していく。
- ・「変わらないこと」「変わったこと」を明確にしたほうが良い。小さな変化は気づかない可能性が高い。小さな変化でもしっかりと情報共有を行うこと、情報を整理することで深度が深くなり理解度が高くなる。

### □改善策

情報を整理すること、小さなことでも「変わったこと」を明確にし、教職員に公開していく。

## (2) 学校運営に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
2-1)	運営方針は定められているか	4…適切
2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4…適切
2-3)	運営組織や意思決定機能は示されており機能的な構成となっているか	4…適切
2-4)	人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか	4…適切
2-5)	意思決定システムは確立されているか	3…ほぼ適切
2-6)	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4…適切
2-7)	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4…適切
2-8)	情報システム等による業務の効率化が図られているか	4…適切

### 自己評価総評・取り組み

全体的に高い評価となっている。情報システムの再整備も行い、大きな課題は現状では発生していない。今後も細かな調整や情報の周知を行う。用途に応じてシステムが数種に分かれているため、教職員が混乱しないようマニュアル作成などが必要となる。

### 学校関係者評価委員会コメント・質疑

事務局からの報告・改善策で意見は一致した。

### 改善策

引き続き透明性を重視した学校運営を徹底していく。教職員が混乱しないようマニュアル作成や勉強会、情報の周知を徹底していく。

### (3) 教育活動に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
3-1)	教育活動は教育理念等に沿った編成・実施方針となっているか	4・・・適切
3-2)	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	3・・・ほぼ適切
3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3・・・ほぼ適切
3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが反映されているか	3・・・ほぼ適切
3-5)	定期的にかリキュラムの見直しはなされているか	3・・・ほぼ適切
3-6)	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	3・・・ほぼ適切
3-7)	成績評価の基準は明確になっているか	3・・・ほぼ適切
3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3・・・ほぼ適切
3-9)	授業評価は実施されているか	4・・・適切
3-10)	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	3・・・ほぼ適切
3-11)	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	3・・・ほぼ適切
3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3・・・ほぼ適切
3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか	3・・・ほぼ適切
3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3・・・ほぼ適切

#### □自己評価総評・取り組み

新型コロナウイルスが5類となったこともあり、多くの産学連携やイベントを実施することが出来た。教育効果もしっかりと表れており、コンテストでの受賞者も多く輩出することが出来ている。

移り変わりが早いクリエイティブ業界に柔軟に対応していくため、業界各所および講師とのより詳細な連携が必要となる。そのうえでカリキュラムの改革・改革内容のスムーズな共有などの徹底が課題となる。より細かな情報共有を行い教職員の理解度を高める必要性があり、全学科バランス良く教育の質を高めていくことも必要となる。

#### □学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・中学校などでは授業の見回りは実施しているが学校職員が授業見学や見回りは出来ているのか？

授業内容の確認、および学生とのコミュニケーションを主な意図として授業の見回りは実施している。授業を受け持つ先生の考えと学生の受け取り方に乖離がある場合は学校職員が間に入り、適宜調整を行っている。

- ・学内システムの研修やコンプライアンス・ハラスメント研修などを実施している。

今後は教職員の希望を収集した上で研修内容を決定していく。

- ・授業評価は学校統一で行っているのか？授業評価が改革する上で重要となるので徹底し続けたほうが良い。

学校統一でアンケートを取り、結果は全てフィードバックしている。

- ・「(3)教育内容について」は講師陣が特に自分事として捉えているからこそ評価が上がりにくい項目の可能性が高い。それぞれが「理想の授業」を持っている可能性が高い。

学校側としては先生方の意見の聞き取り、取りまとめ、カリキュラムへの変更をより一層徹底していく。先生方が授業内容について重視してくださっていることは教育内容を重視している学園としてはとてもありがたいこと。先生方の想いを形にしていきたい。

- ・講師陣と学校側の意見交換が出来る場をもっと増やしていく。

#### □改善策

全体での講師会は引き続き徹底すると共に学科ごとの分科会の場をもっと作っていく。

学校と講師陣との関係性は非常に良好なため、意見交換が出来る場を多く設定することで活発な意見交換が生まれると思われる。集約した意見を形にできるよう学校職員が運営・管理に最善を尽くす。

#### (4) 教育成果に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
4-1)	就職率を向上させるための施策は図られているか	4・・・適切
4-2)	資格取得またはコンテストでの受賞の向上が図られているか	3・・・ほぼ適切
4-3)	退学者を減らすための施策は図られているか	3・・・ほぼ適切
4-4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3・・・ほぼ適切
4-5)	卒業後の社会的な活動を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3・・・ほぼ適切

#### □自己評価総評・取り組み

就職に関しては目標を明確にしたキャリア計画により良い結果となった。コンテストでは今年度も結果を残せている。24年度の対策のひとつとして予防的対策に力を入れ退学者を減らせるよう対応していく。卒業生については学校側でも活躍・活動を把握しているが講師陣が連絡を取り合っているケースも多い。校友会活動を活性化させ、卒業生が集える場を多く設けていけるよう校友会にも働きかけていく。



□学校関係者評価委員会コメント・質疑

・退学率と退学理由はどのような内容なのか。

学科によって異なるが5～15%程度。体調面や進路変更などでの退学が中心となる。

担任制による個別カウンセリングや保護者との連携、診療心理士によりオンライン相談など対策は講じている。学生の変化に早期に気づくことが重要となることと、授業内容の見直しや個別対応等も対策として実施している。

□改善策

元々卒業生のつながりは深い学校ではあるが、より一層の連携を図るために校友会活動の活性化を図り、年間を通したイベントの実施など卒業生が集える機会と場を設けるよう働きかけていく。退学者対応としては、学生の変化に早期に対応できるよう予防的対策を講じると共に時代に合わせた授業内容の改善、課題に悩む学生への個別対応に力を入れていく。

(5) 学生支援に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
5-1)	就職に関する支援体制は整っているか	4…適切
5-2)	学生相談などの支援体制は整っているか	4…適切
5-3)	学生への奨学金等の経済的支援は整っているか	4…適切
5-4)	学生の健康管理に関する支援体制は整っているか	4…適切
5-5)	課外活動に関する支援体制は整備されているか	4…適切
5-6)	学生の生活環境への支援体制は整備されているか	3…ほぼ適切
5-7)	保護者と適切に連携しているか	4…適切
5-8)	卒業生への支援体制はあるか	3…ほぼ適切
5-9)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3…ほぼ適切
5-10)	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3…ほぼ適切

□自己評価総評・取り組み

多くの項目で高い評価を上げることが出来ている。社会人のニーズと学校が置かれている環境に乖離がある。社会人層を中心とした教育環境の整備は課題となる。(夜間部の設置や経験層に対する教育の提供など) 高等学校との産学連携や部活動支援など例年より多く連携し実施することが出来た。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・教育は通学コースのみなのか？通信コースは検討していないのか？通信コースは社会人のニーズにマッチするのではないか？

現状は通学コースのみとなっている。様々な方向で学科設定は検討している。

- ・昨年より評価を下げた項目の原因を追究してほしい。

□改善策

基本的には現状を維持したまま適宜上がってきた問題に対応していきたい。社会人対応については基礎から学びたい社会人層の受け皿は設けており、教育から就職まで支援体制は整えている。社会人のクリエイティブ経験層や働きながら学びたい社会人層は様々な観点より対応を検討していきたい。

(6) 施設設備に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
6-1)	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	3・・・ほぼ適切
6-2)	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3・・・ほぼ適切
6-3)	防災体制は整っているか	4・・・適切

□自己評価総評・取り組み

22年度、23年度と多くの機材の入れ替えや新規機材の導入を行っている。情報として全体への告知・共有を徹底する必要がある。また23年度より国内・海外研修も再開した。新型コロナウイルスが5類となったことを受け、官民学との産学連携も多く実施している。防災対策についても徹底している。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・全ての学科で機材の入れ替えは対応できているのか？

各科バランスを見ながら偏りがないう機材の入れ替えや新規導入を行っている。

- ・施設・設備への投資は重要なので今後も引き続き対応してほしい。

- ・導入した機材は学生も使用できるのか？

学生貸し出しも行っている。PCや大型モニターなども使用可能である。

□改善策

24年度も機材の入れ替えを行う。海外研修も既に計画をしており、秋口に実施する予定。防災訓練を定期的実施していきたい。

## (7) 学生募集と受け入れに関すること ここから

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
7-1)	学生募集の活動は希望者の意向を配慮し適切に行われているか	4…適切
7-2)	教育内容を適切に学生募集に反映しているか	4…適切
7-3)	入学選考の時期・基準・方法は適正か	4…適切
7-4)	納付金は妥当なものとなっているか	4…適切

### 自己評価総評・取り組み

学生募集については適切な募集を行っているとは評価されている。高校生とのミスマッチが起きないように懇切丁寧に学校の正確な情報を伝えていく必要がある。

### 学校関係者評価委員会コメント・質疑

事務局からの報告・改善策で意見は一致した。

### 改善策

引き続き適正な学生募集活動を重視していく。また、高校生とのミスマッチが起きないように学校の実績も参考資料としながら卒業後の進路もわかりやすく伝えられる仕組みを構築していく。

## (8) 財務に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
8-1)	中長期的な財務基盤は安定しているか	4…適切
8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当か	4…適切
8-3)	会計監査は適正に行われているか	4…適切
8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか	4…適切

### 自己評価総評・取り組み

公認会計士(監査法人)による会計調査を受け、私立学校法および寄附行為にもとづき、選任された2名の監事が財務会計監査を実施している。適切な財務管理を行っている。

### 学校関係者評価委員会コメント・質疑

事務局からの報告・改善策で意見は一致した。

### 改善策

引き続き学園本部と連携し、透明性があり適正な財務管理を行っていく。

### (9) 法令順守に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
9-1)	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4…適切
9-2)	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4…適切
9-3)	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	4…適切
9-4)	自己評価結果を公表しているか	4…適切

#### 自己評価総評・取り組み

法令や設置基準を遵守すべく最善の努力をしている。昨年に続き全項目で4ポイントを獲得しており、適切な対応がなされていると評価できる。

#### 学校関係者評価委員会コメント・質疑

事務局からの報告・改善策で意見は一致した。

#### 改善策

引き続き学校の取り組みを理解してもらえよう徹底していく。

### (10) 社会貢献に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
10-1)	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	4…適切
10-2)	学生のボランティア活動に対する支援は整備されているか	3…ほぼ適切
10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3…ほぼ適切

#### 自己評価総評・取り組み

ボランティア活動については授業と課題量との兼ね合いにより活動の推進と整備が課題となる。アートフェアアジア福岡などボランティア派遣を実施している取り組みもあり、24年度も少しでも多く実施していきたい。地域に対する公開講座は後手に回ってしまっているが今年度は実施していきたいと考えている。

#### 学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・ボランティアについては災害等をイメージすると推進出来ているとは言い難いがいくつかのボランティア活動は実施している。
- ・学んでいる内容の延長上で考えれば災害等のボランティアも推進できるのではないかと？
- ・学生が休みの期間にボランティア情報を提供してはどうか？ボランティアは学生達が社会について考えるきっかけになる。

□改善策

24 年度も関係各所との連携を図り多くのイベントを実施していく。学校にいくつものボランティア情報は届いているので掲示するだけでなく、学生達に積極的に告知をしていく。

(11) 国際交流に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
11-1)	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4…適切
11-2)	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3…ほぼ適切
11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3…ほぼ適切
11-4)	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3…ほぼ適切

□自己評価総評・取り組み

留学生の受け入れについては課題である。全体として留学生の比率が低い。日本語学校からの受け入れとマレーシアからの留学生の受け入れも実施はしている。今後、積極的に留学生を受け入れていく必要があるが経済的な問題、日本語能力の問題をクリアしていく必要がある。

□学校関係者評価委員会コメント・質疑

・受け入れている留学生はアジアが中心なのか？

現状ではアジアが中心となっている。ただし東京校含めアジア以外の留学生も多く通っているため、アジアに限定しているわけではない。留学生については地域の特性も影響している。

□改善策

日本語学校訪問や留学生向けのガイダンスに積極的に参加していく。姉妹校であるマレーシア校とも連携を強化し、両校学生が各国で活躍できる仕組みを検討していく。

#### 4.学校関係者評価委員の評価結果について

上記報告書は、学校関係者評価委員として、  
妥当な評価であることを確認し、認めます。

令和6年 6月2日

##### 【学校関係者評価委員会】

委員(業界関係者代表)

井上 憲一郎(井上総合印刷株式会社 代表取締役)

委員(業界関係者代表)

佐野 直樹(株式会社ダブルベース 取締役)

委員(業界関係者・卒業生代表)

日高 信生(株式会社ディーゼロ 執行役員)

委員(業界関係者・卒業生代表)

宮崎 智文(トゥモローデザイン)

委員(高等学校代表)

田中 智(学校法人恭敬学園 学園長)

委員(地域代表)

井浦 賢治(東住吉公民館 主事)